

展覧会報告（2013 年 10 月～2014 年 11 月）

展示委員会

【2013 年度】

〈図書館企画展〉

人がうたをつくるとき～万葉集から校歌まで～

会 期：2013 年 10 月 18 日（金）～11 月 20 日（木）

会 場：総合学術情報センター 2 階展示室

秋の企画展は、「うた」をテーマにした展覧会を開催した。一言で「うた」と言ってもさまざまである。古代から現代まで、人々はいろいろな場で「うた」をつくってきた。「うた」は、人が、ある時、何かしらの思いを持って切り取った日常（時には非日常）の 1 コマだと言えるかもしれない。思いの方向と深さは様々だが、今回の展示は何かを「思い遣る心」があって初めて「うた」がつくられるのではないかと、という視点から資料を選定した。たとえば、恋人、友人、故人、母校、小さな生き物たち、そして死、それぞれと向き合った時に生まれた和歌、狂歌、俳句、近代詩などの「うた」の数々を紹介した。出陳資料をできるだけ作者自筆のものとしたことで、直接その声を聴くような、そんな感覚を覚えたのではないだろうか。聴きなれた「うた」も、少し見方を変えるとまったく違ったものに感じられる、そんな思いを抱かせる展示となり、好評であった。



〈図書館企画展〉

美しい本とは、

～ウィリアム・モリスと私家版印刷工房の時代～

会 期：2014 年 3 月 24 日（月）～4 月 24 日（木）

会 場：総合学術情報センター 2 階展示室



19 世紀ヴィクトリア女王時代のイギリスでは、産業革命によって印刷術も大きな変革を迎えた。大衆向けの様々な出版物が大量に印刷されるようになり、人びとにとって読書が身近なものになる一方で、粗悪な紙や読みにくい活字、配慮を欠いた版面の本を生み出すことにもなった。そうした印刷のあり方に対抗して、作家・装飾デザイナーとして活躍し、社会運動家でもあったウィリアム・モリス（1834-1896）は、私家版印刷工房ケルムスコット・プレスを設立、美しい良質の本を印刷することに情熱を注いだ。彼の活動に刺激を受けた人びともまた、それぞれ特色ある印刷工房を設立し、出版活動を進めた。本展では、ケルムスコット・プレスの刊本を中心に、近年あらたに収蔵したものを含むイギリスの私家版印刷工房の刊本、および 19 世紀イギリスの出版事情に関する資料を紹介した。さらに、モリスが理想とした印刷術の原点に遡っていただけよう、中世の彩色写本とインキュナブラ（初期の活版印刷本）を特別展示した。「美しい本とは、」というモリスや印刷家たちの問いかけを提示し、彼ら自身の回答ともいえる私家版印刷本をご覧いただく企画であったが、「美しい本」そのものの魅力もお楽しみいただける展示となった。

【2014 年度】

〈中世文学会春季大会開催記念展示〉

そして能が生まれた。

会 期：2014 年 5 月 23 日（金）～ 6 月 26 日（木）

会 場：総合学術情報センター 2 階展示室

主催：中世文学会 早稲田大学図書館

協力：吉田文庫 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

日本中世文学に関する全国最大規模の学会「中世文学会」の春季大会が早稲田大学で開催されるにあたり、記念展示を学会、図書館の共催で開催した。「能」は 15 世紀初頭に世阿弥によって大成されて以来、今日までほぼ変わることなく演じ続けられ、後の世の文学、芸能にも大きな影響を与えてきた。そしてその「能」もそれ以前の文学、芸能のもとに生み出された中世芸能の大輪の花と言える。今回の展示は、そうした「能」以前の和歌、連歌、物語等に着目し、今日まで続く「能」の源流をたどった。今回は新潟の吉田文庫および本学演劇博物館からも資料をお借りしてより充実した展示となった。6 月には「能楽学会」の大会も早稲田大学で開催されたため会期を延長し、学内だけでなく学外からも多くの来場者を得て好評であった。

中世文学会 春季大会 開催記念展示

「会場」早稲田大学総合学術情報センター 2 階展示室
「主催」中世文学会 早稲田大学図書館

そして
能
が
生まれた。



藤原朝臣阿曾九郎



藤原朝臣阿曾九郎



阿曾九郎

二〇一四年五月二十三日[金]～六月十九日[木]
日曜閉室 但、五月二十五日[日]は開室(十七時まで)

〈図書館企画展〉

江戸に妖星を放つ！～『水滸伝』の伝来と変貌～

会 期：2014 年 10 月 17 日（金）～ 11 月 27 日（木）

会 場：総合学術情報センター 2 階展示室

2014 年は曲亭馬琴の代表的な戯作『南総里見八犬伝』の刊行 200 周年にあたる。図書館ではこれまで様々な形で馬琴や『八犬伝』を取り上げ、展覧会を開催してきたが、今回の展示では馬琴に大きな影響を与え、『八犬伝』の原点のひとつとなったとされる中国の小説『水滸伝』に焦点をあてた。

『水滸伝』の伝来と変貌

2014年10月17日[金]～11月20日[木]

日曜日、10月31日は閉室 但し、10月19日(日)は開室(17時まで)

「会場」早稲田大学総合学術情報センター 2 階展示室
「時間」10:00～18:00
「主催」早稲田大学図書館

江戸に妖星を放つ！



『水滸伝』は江戸時代に日本に伝来後、和訳、翻案、剽窃、諧謔、さらには新しい創作へと様々な変貌を遂げながら巷間に広まり変遷していく。好漢たちが活躍する波乱に満ちた物語は、馬琴をはじめとする戯作者や歌川国貞、国芳、葛飾北斎といった絵師らを触発し、飛び散る星のごとく作品が生み出され、江戸の人々の心を捉えた。こうした日本における『水滸伝』の伝来と変貌を、新収資料をまじえながら館蔵資料でたどった。豪傑たちの錦絵や水滸伝をモチーフとした数々の作品から江戸時代の『水滸伝』人気を伺える展示となった。